

原田ゼミナールでは、フィールドにおいて様々な活動を行っています。

二回生は亀山での調査活動を行っています。

三回生は、同志社大学と関西大学と合同でZOOMを用いてディベート大会を行いました。また閉会の挨拶などを担当しました。結果は、良い成績を取めることができなかったのですが、オンラインでの開催で小さな一歩を踏み出したと確信します。

既存の活動である毎月の庭窪わんどでの清掃活動は非常事態宣言での中止の期間がありましたが、解除後は人数を5人と絞って活動を続けています。調査では多種多様なプラスチックごみが確認でき、以前から使用している「海辺のごみ見つけ！」に書き込んでデータを集めています。

動画

現在、世界的に海洋ごみ、いわゆるプラスチックごみが社会問題となっています。これらのゴミはマイクロプラスチックとなり、海洋に漂い、環境汚染、生態系の破壊、海洋生物の誤飲による死亡事例、プラスチックを誤飲し汚染された魚を食べることによる健康被害の可能性などが問題となっております。原田ゼミナールでは、これらの問題と向き合い河川環境の保全やプラスチックごみの問題について学んでいきます。



## フィールドワークによる 河川環境保全の研究 原田ゼミナール



### 二年生の活動

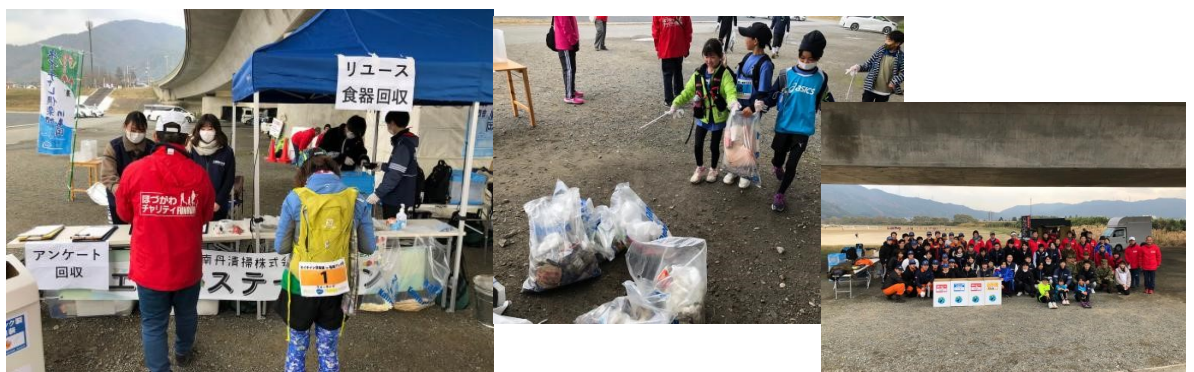
原田ゼミでは、昨年12月に行われた**ネイチャレ倶楽部n亀岡**というプラスチックゴミを出さないスポーツイベントの運営のサポートをしながら、リユース食器についてのアンケート調査と山岳付近のゴミ調査を行いました。ゴミ調査では約**軽トラック2台分**のごみの量が見つかり、そのほとんどがプラスチック製品でした。

アンケートを現場で行った調査の結果認知度では「はい」が約60%「いいえ」約40%という結果になり、意外にも知られていないと感じたが「**リユース食器**」の使い心地を調査したところ「**よかった**」約99%という結果でそこで考えたことはリユース食器の認知度を広めることさえできれば**プラごみゼロ**へが夢ではなくなるであろうと考えた。

### 総括

この一年間のフィールドワークゼミナールの活動を通して、世界のごみ事情を知ることができた。また、いかにそのごみ問題が深刻かが理解できた。アメリカの小学校では、ごみ問題に関する授業を行っていたり、環境にやさしい食器を使っていることや若者中心でごみに関する条例を変えてしまっていた。**いかに日本が環境問題に取り組む姿勢が遅れているか**理解できたので私たちのような若い世代が先導してこのような状況を変えていきたいし、この状況を同世代の人やもっと**若い世代の人々にわかりやすく伝える**ことが必要と考

### アンケート調査とごみ調査の様子



これまでに「リユース食器」という言葉を  
知っていましたか？





### 3 回生の活動

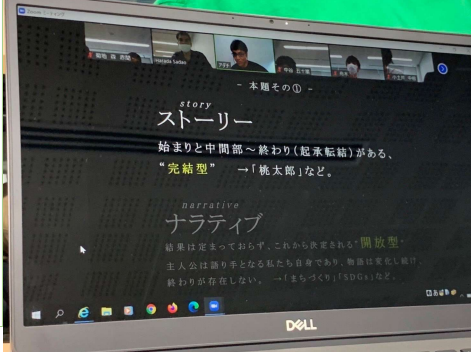
3 回生の活動は何も環境関連のものだけではありません。例えば、トークイベントにてゲームクリエイターの足立やすしさんのお話をzoomを通して聞きました。このイベントで学べたことはストーリーの始まりから終わりまで（起承転結）が重要であることとキャラクター作りが必須であることです。加えて、“ナラティブ”という言葉の説明を聞くことができました。ほかにも、大阪のカタシモワイナリーという企業の企業研究や桂川鮎調査にも参加しました。特に企業研究では柏原市・カタシモワイナリーの歴史やワインを販売する為に必要な営業力、お客様に商品の魅力を伝えるためのポイント・CSR（企業の社会的責任）・SDGs（持続可能な開発目標）に対する考え方を学ぶことができました。最後に桂川での鮎の調査では鮎を捕まえるコツだけでなく、鮎が遡上する為に必要な要素を学習することができました。以上のように、**フィールドワーク活動を行うことで、今まで知らなかった事等を体験・学びの機会になったことだ**と思います。

### プラスチックごみ問題の解決に向けて

プラスチックごみ問題は世界規模におよんでいます。例えば、海洋生物が餌と間違えて誤飲したり、漁船の網に絡まり動けなくなることがあります。最悪の場合は死に至ります。その問題は人間だけではなく他の生物までも影響が出ています。例えば、プラスチックごみを食べた魚が漁船に捕まり、最終的に私たちの食卓へと繋がります。つまり、**私たちは微量のプラスチックを摂取している可能性がある**ということです。無論、プラスチックの中には人体に有害な物質を持っているため非常に危険です。この問題の解決は容易ではありません。アメリカやEU等の国々がレジ袋の使用禁止やリユース・リサイクルの効率化、サーキュラー・エコノミーに向けた投資とイノベーションの拡大等の対策を施行しています。ほかにも、私たちの日常生活での対策に取り組むことができます。例えば、マイバックを使ってレジ袋の使用を控える。マイボトルを持参してプラスチック容器の使用を減らす。プラスチック製のスプーンやフォーク等を貰わずにマイ箸やマイスプーン等を常備する。これらの解決方法をひとりひとりがこの問題を意識して取り組むことで問題解決への糸口になります。



↑↓3 回生の活動（カタシモワイナリーの企業研究）

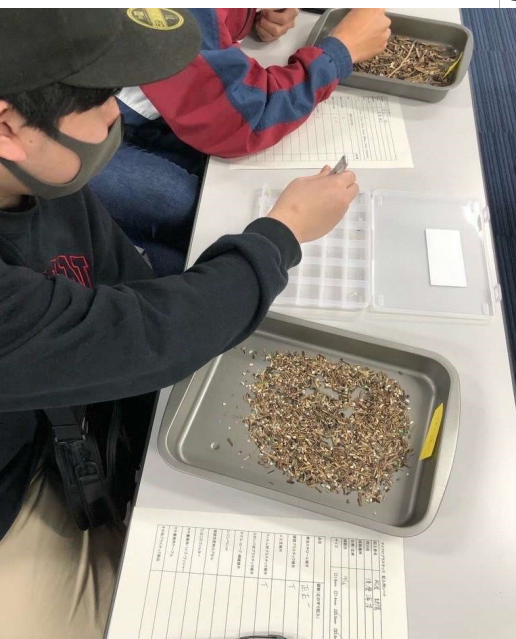


足立やすしさんのトークイベント

### 4 回生の活動

マイクロプラスチックをピンセットで取り、記録している様子。

大阪湾周辺のマイクロプラスチック調査を行いました。ほかにも、これまでの河川ごみ調査の分析や、オンラインでの就職活動の報告会等の活動がありました。  
※マイクロプラスチックとはプラスチックごみが風や雨などで**直径5ミリメートル以下までに小さくなったプラスチック**のことを指します。下の写真のように非常に細かいため、ピンセット等の道具が必要なほど小さく分解されています。



ザルでプラスチックごみを回収する様子。

